Project プロジェクト

上半期発行号
放射線タウン情報
2018.9.1発行 No.21
【編集発行】
南相馬市健康づくり課
☎0244－24－5381

美味しい夏野菜 採って測って食べました

8月4、8日　児童による体験ツアーの様子

平成30年8月4日(土)および8月8日(水)、市内の小学3、4年生を主対象にした「夏野菜狩り体験ツアー」が行われ、家族も含めて2日間で30人に、農家での野菜収穫～原町生涯学習センターでの放射性物質測定～収穫した野菜を使った料理の試食会を体験していただきました。

子ども達や保護者の皆さんの笑顔も溢れ、体験を通じて楽しく放射線や地元農業について学びました。

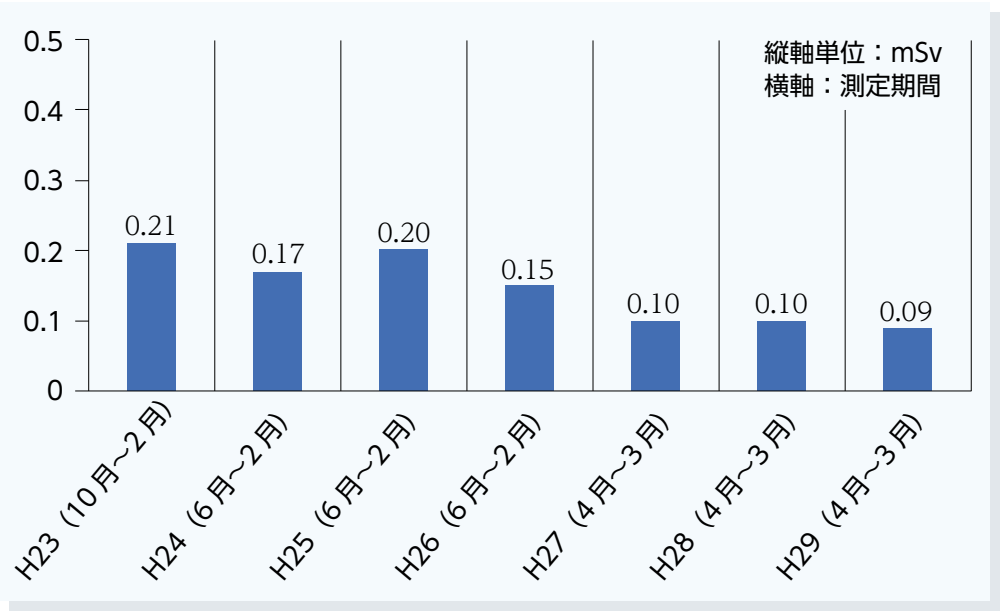
参加者の声

- とても楽しくためになるイベントでした。農家の方のお話はとても参考になりました。
- 食育や放射線に関して大人と子どもで話す機会ができ良かったです。
- 2回目の参加ですが、前より放射線のこともよく知ることができたと思います。
- いつもスーパーで野菜を買っていますが、1から作る大変さを知ることができました。
- 子どもと野菜を採って食べるということはとても良いと思いました。
- 今回野菜を採らせていただいた農家さんはハウス栽培だったので、より安心だと思いました。
- キュウリやトマトを採れて嬉しかったです。
- 友達と一緒に食べたごはんがとても美味しかったです。
- キュウリやトマトを袋が破れてしまうほど採りました。雨の中頑張った分、美味しいカレーとサラダが食べられたと思います。
- キュウリもトマトも根元から横に引っ張って採ることを知り、勉強になりました。

外部被ばく
内部被ばく の経年変化

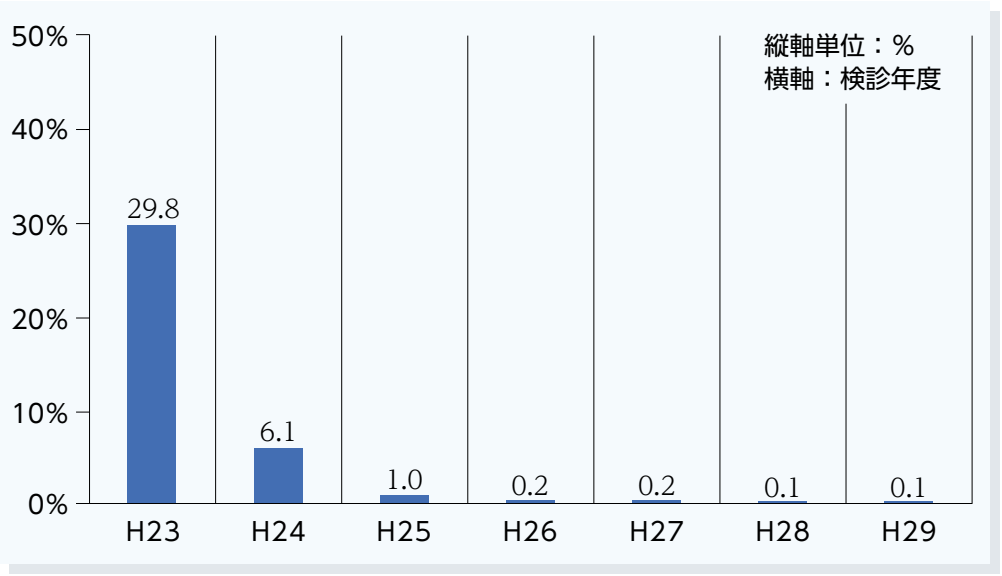
平成23年度より実施してきました個人積算線量計（ガラスバッジ）による外部被ばくの測定結果および WBC（ホールボディカウンター）による内部被ばくの測定結果について、経年変化によりご案内します。

外部被ばく測定結果の経年変化（追加被ばく線量）



測定人数
H23：10,677人
H24：　9,908人
H25：30,210人
H26：22,632人
H27：23,846人
H28：23,001人
H29：21,767人

内部被ばく検診結果の経年変化（セシウム検出率）



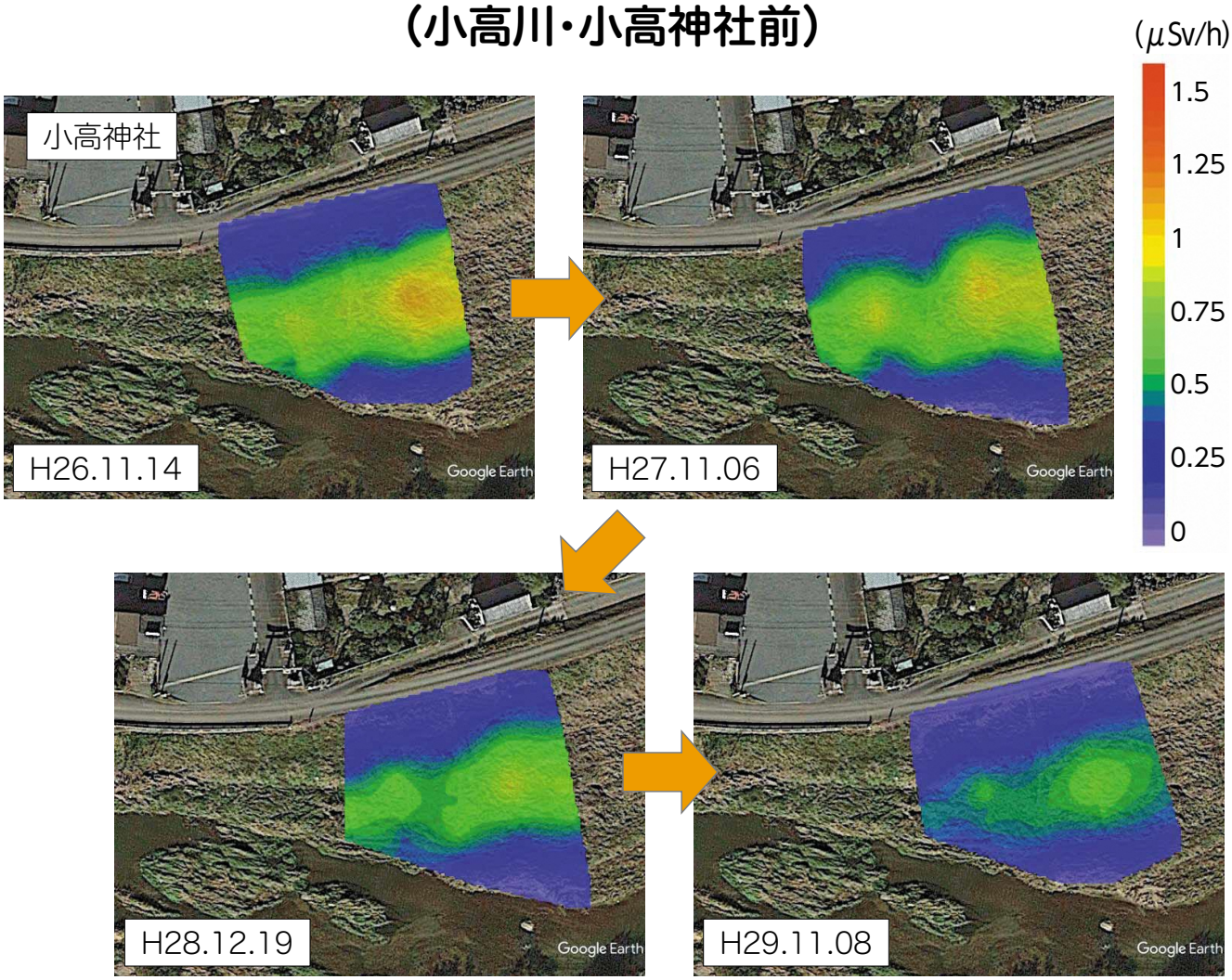
検診人数
※一般用WBC
H23：　9,502人
H24：11,521人
H25：15,186人
H26：10,827人
H27：11,046人
H28：　9,587人
H29：　9,943人

※平成３０年８月現在、南相馬市立病院のホールボディカウンターのセシウム検出限界値は、セシウム 134 が 220Bq/body、セシウム137が250Bq/body です。Bq/bodyとは受診者の身体あたりの放射線量で、 体重 60kg の人の放射線量の検出限界値は、250÷60≒4Bq/kg となります。

外部被ばく・内部被ばくともに、測定・検診開始当初に比べてだんだんと数値が小さくなり、近年ではほとんど横ばいになっています。今後も数値が高くなる可能性は低いと言えます。

河川敷空間線量の経年変化

（小高川・小高神社前）



空間線量率は減少傾向

※河川敷を歩きながら、空間線量率と位置情報を同時に取得できる装備を用いて計測（高さ約１m）
出典：日本原子力研究開発機構福島研究開発部門福島環境安全センター「福島長期環境動態研究（F-TRACE）」より

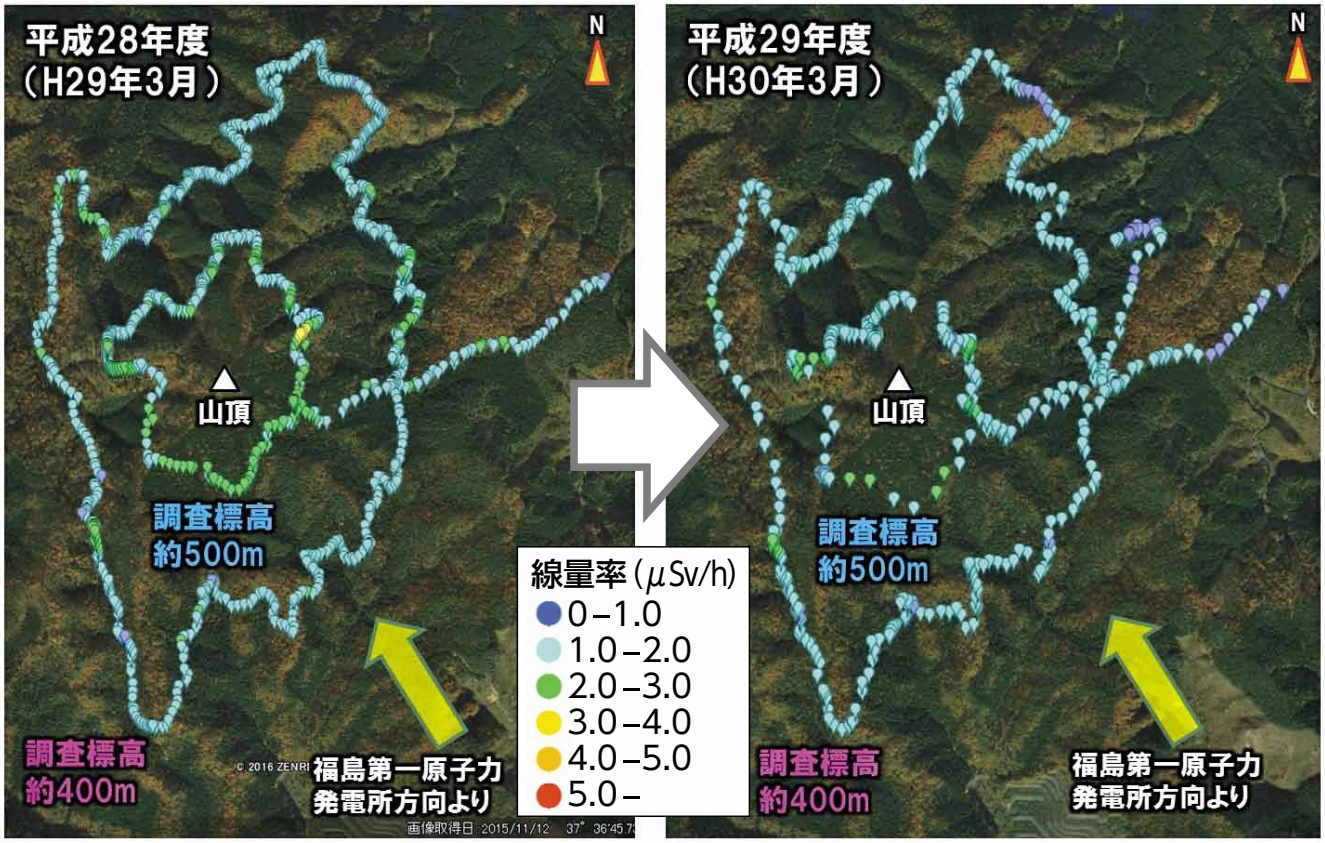
専門家の見解　京都大学名誉教授　渡邉　正己 先生

原子力発電所の事故後、福島の環境放射能の動きを掴み、住民の皆様の安全を図るために長期間にわたる F-TRACE プロジェクト（国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構）が行われています。

この調査では、様々な環境条件下で放射能汚染がどのように移動・変化するかを調査し、住民の安全を守るための対策に利用します。環境を汚染した放射性物質は、泥に付着し、長い目で見ると天候などの影響を受けて、水とともに河川を通じて海洋へ流れてゆきますが、河川の形状、流水の状況などで放射性物質が蓄積しやすい箇所としにくい箇所があります。しかし、ここに示された小高川流域の空間放射能量の測定結果から、その量は、年を経るごとに顕著に減少していることがわかります。

山林空間線量分布状況　国見山（原町区）

平成 28 年度末（平成 29 年 3 月）調査時と比較して、1 年後の平成 29 年度末（平成 30 年 3 月）の測定結果は、減少傾向。



出典：日本原子力研究開発機構福島研究開発部門福島環境安全センター「福島長期環境動態研究（F-TRACE）」より
※等高線に沿って歩きながら、空間線量率と位置情報を同時に取得できる装備を用いて計測（高さ約 20cm）

国見山の再生に向けて：里山再生モデル事業

国見山は、標高５６４ｍで南相馬市では一番高い山であり、うつくしま百名山のひとつです。山頂まで登る遊歩道は、四季折々の動植物に接し、お子さまから、お年寄りの方までトレッキングが楽しめ、展望台・トイレ等が完備された森林公園で保健休養・文化・教育的な諸活動を行う場として利用されていました。

原子力発電所の事故以降、国見山森林公園へのアクセス林道の法面の崩落や、空間線量が高いことから、立入禁止措置としていましたが、今回、復興庁、林野庁、環境省の３省庁による『里山再生モデル事業』を実施しています。遊歩道・多目的広場等の除染、また、山林の間伐等を行うと伴に、放射性物質の状況を把握した空間線量マップを作成し、国見山森林公園利用者の安心・安全に向けた環境づくりを目指します。